

I 2014 年度活動報告

1. 平成 26 年度夏季 教員免許状更新講習 1

言語文化としての英語表現

－ 英語の発想・日本語の発想と生き生きとした英語表現活動 －

平成 26 年 8 月 5 日（火）

- ・「生の英語表現」－言語と文化の関係性や言葉の力の理解－
- ・「生き生きとした英語表現活動」－日英感覚の違いから起こる英語表現の味わい－

■講座のねらい

本年度から高等学校では「英語表現」という科目が英語授業に導入されているが、その教科書は文法解説と和文英訳の域に留まっているように思われる。

本来、英語を学ぶということは、英語圏の文化と思想を学ぶことであり、異なるものの見方を身につけることを通して世界を別の観点から読み取ったり把握したりすることでもある。英語教育においてコミュニケーション活動の重要性が一層増している中、英語表現を通して意味のあるコミュニケーションを行うための基盤的な言語文化の理解を深めることを本講習の目的とする。

第一部では、国際社会の様々な場面をとらえ、メディアを介して私たちが接することのできるいわゆる「生の英語表現」を取り上げる。そこでは、どのような英語表現が使われているのか、どのような情報やメッセージを伝えようとしているのか、そして背景にどのような文化や発想の違いがあるのかを考え、言語と文化の関係性や言葉の力を理解するとともに、「生の英語表現」を学ぶ喜びを引き出すヒントにしたい。第二部では、「英語という言語を知る」を基調テーマに、「発音・音読による英語表現」、「日英感覚の違いから起こる英語表現の味わい」、「英語で表現する楽しみ・創作表現活動」など英語教室での実践的な活動を取り上げ、ワークショップ形式を通して「英語表現」という言語文化を体感しながら、明日の授業を展開するための基盤構想力の育成に努める。

○担当：東條

- ① 9：10～10：10 「生の英語表現」－言語と文化の関係性や言葉の力の理解－ (1)
- ② 10：20～11：20 「生の英語表現」－言語と文化の関係性や言葉の力の理解－ (2)

○担当：中井

- ③ 11：30～12：30 「生き生きとした英語表現活動」(1)－発音・音読による英語表現－
(昼食)
- ④ 13：20～14：20 「生き生きとした英語表現活動」(2)－日英感覚の違いから起こる英語表現の味わい－
- ⑤ 14：30～16：00 「生き生きとした英語表現活動」(3)－英語で表現する楽しみ・創作表現活動－
- ⑥ 16：10～16：40 講習認定試験

1.1 本学教員免許状更新講習受講希望理由（事前アンケートより）

A. この講習の受講を希望した理由はなんですか。

- ・メディアを通して触れられる「生の英語」を学び、現実の世界で日常的に使われている最新の英語を体験したいと思いました。また、「発音・音読」を重視した英語学習は、私自身の授業でも目標としているところであり、是非、参考にしたいと思っています。
- ・メディアを介した“生の英語表現”に自分自身留学時代に大変興味を持ち、授業にも取り入れたいと思い希望しました。
- ・私は現在高校で英語を教えています。今年度は文法の授業を担当していますが、文法事項の説明の際には、どうしても一方的に説明するという形が多くなってしまいます。もっと生徒が積極的に参加できるようなやり方はないかと模索中ですので何か良い方法がありましたらぜひ教えて頂きたいです。またその他にも授業で使える技術などいろいろと学ばせて頂きたいと思い受講を希望させて頂きました。
- ・英語表現の授業のあり方を英語圏の文化や生の英語表現を学ぶことにより様々な角度から考察することができると思ったため。
- ・2年前に大阪女学院大学での公開授業参観に参加したことがきっかけで、何かの講習が受けられる機会があればまた受講したいと思っていたのが1番の理由です。学生時代は英語科教育学を中心に学んでいたため、言語そのものについての講習も受講したいと考えたため、今回の講習の受講を希望いたしました。

- ・教材研究をするにあたって、テキストに応じて指導内容を変えるヒントが得られそうだったからです。また、2年前に公開授業参観に参加させていただいたとき、LL教室で発音指導をされている授業を見せていただきました。（その授業と同じかどうかはわかりませんが）自分にとってとても新鮮な観点での授業だったので、今回も発音等にかかわる講義や演習があるかと期待し、希望いたしました。
- ・最近、生の英語に接する機会が少なくなっているため、この講習で少しでも brush up したいです。
- ・授業指導のバリエーションを増やしたり、考えたりする時にとても参考にさせてもらえるような内容で自分が学んだことを生徒にフィードバックできそうだったから。
- ・「英語表現」の授業を担当していますが、3冊の教材を並用して文法を教える、というスタイルのため生徒に英語で表現することの楽しさを感じさせる余裕がありません。量をこなすことと楽しさを感じさせることの両立について何かヒントが得られれば、と思います、希望しました。
- ・昨年度より新学習指導要領により英語で表現する力が重要視されるようになりました。したがって授業でも「英語表現」するトレーニングを繰り返し行っていきたくと思っています。授業で使えるようなアイデアや知識を学びたいと思い、この講座を希望しました。
- ・発音・音読の指導を学びたいので。
- ・英語に関する知識を深めるため。
- ・女学院の英語講座の質の高さを体感（2013年度）し、今回もぜひ…と思ったため。
- ・言語と文化の関係についてより理解を深めたいと思います。
- ・授業では文法説明や訳読だけに重点を置くようになり、英語圏の文化の違いや思想などを生徒に紹介するということから遠ざかっているような気がする。今回の講習を受けることでもう一度英語を教えることの意味を確認し、授業に生かせることができればいいと考えたため。
- ・自分の授業をより良いものにするため。
- ・少人数であることと、“発想”というキーワードに魅力を感じました。普段の授業で忘れがちな言語のおもしろさをまた授業で伝えられるようになりたいと思い希望しました。
- ・英語を表現する力を生徒たちにもっとつけてあげたいと考えている。この講習のテーマが「言語文化としての英語表現」であるので、生徒たちのためにも自分が学んでおきたいと考えたため。
- ・実践的な指導方法等について学んでいきたいと思います。
- ・2年前に教員免許状更新講習でたくさん情報と資料をいただき、たいへん役に立っています。聴講生として参加させていただき勉強したいと思いました。
- ・語学は、その国の文化に多大な影響を受けるものだと考えています。文化と言語の関わりをよりよく理解するために希望致しました。現在、本校では「英語表現」の授業は行っていないが今後の参考になればと考えております。
- ・生の英語表現と、発音、音読指導を受講してみたいと思ったため。使える文法指導にも興味を持ちました。
- ・講習の内容に、とても興味を持ちました。講習①に関しては、英語や外国語を学ぶと言うことに関しその国自体の文化を学ぶ必要性を強く感じておりますので受講したく思いました。又、発音、音読もとても重要なのでぜひこの機会に勉強させてください。
- ・4年振りに「英語表現」を教えることになり、授業に活かせる講習を受講したいと思ったところ、貴学の「生の表現」「生き生きとした英語表現活動」という内容が私の求めている講習だと思ったため。
- ・英語教育に定評のある貴学で実践的な内容の講習を受講したいと思ったから。
- ・海外のメディアで使われている「生の英語表現」を学べる点、そして言語から文化背景や発想の違いについても考える機会がある点です。また、英語で表現する活動を、どのように自分の授業に応用できるのか等も模索したいと思います。
- ・講習のタイトル「英語の発想・日本語の発想と生き生きとした英語表現活動」に魅かれました。マンネリになりがちな自分の授業に何かアクセントを取り入れた授業をしたいと思い受講を希望しました。
- ・英語表現活動が講習内容だったから。
- ・言語を教える際、その背景の文化や発想の違いを教えるとより一層理解させやすく、生徒に英語や外国に対する興味付けができると思ったから。
- ・英語教室での実際的な表現活動は時間的な関係もあり十分にできないことが多い。「英語表現の味わい」、「英語で表現する楽しみ・創作活動」など、魅力的な活動について学びたいと思ったから。
- ・英語教員生活は31年と長いですが、経験を重ねるに従い、自身の及ばないところがよく見えるようになってきた。英語を通して、人々

の思想や文化を知るというスタンスは常に保持してきたが、教授法のノウハウを体系的に学ぶ必要性を改めて強く感じ、この講習の受講を希望した。

- ・「生の英語表現」について学べるということを知り、とても興味がわきました。第2部では、英語授業で使えるような活動を取り上げて、ワークショップ形式で学べるということなので、とても関心を持っています。
- ・英語と日本語の発想の違いの具体的な例を知り、英語表現の幅を広げたいと思ったから。
- ・英語教育が充実している大阪女学院大学で講習を受けたかったこと。また、指導技術の向上として様々な英語表現方法等学びたかったため。
- ・貴学が通いやすい場所にあり、英語教育に定評のある学校なので。
- ・「英語表現活動」をテーマにされていたため。普段より和訳中心の指導スタイルに疑念を抱いています。職場の先輩に中井教授について「大変役に立つ講義をして下さる」「絶対におもしろいよ」と勧めていただいたため。
- ・英語表現の大切さを感じております。自己の不十分な英語能力の向上になればと思い希望しました。
- ・免許状更新講習一覧の「講習の概要」にあるように、「英語の表現」について、また「その方法論」や「実践」について、もっと研鑽を積みたいと感じたからです。
- ・講習の概要にある『メディアを介した「生の英語表現」を取り上げ』という内容に興味を持ったため、また英語の表現、創作活動についてより深く学びたいと思ったため、本講習を受講することを希望しました。
- ・家から通学可能な距離である。私自身が社会学専攻でありながらも英語教師となっている理由は、言葉と文化の関係性への強い関心とそれを生徒に伝えていきたいという理由からであり、その為の基盤知識をこの講習でしっかり修得したいと考えたから。
- ・講習テーマの「生の」英語表現や「生き生きとした」英語表現に改めてじっくり向き合い最新の英語教育事情を学びたいため。昨年貴学で受講した同僚が、とても良かったとすすめてくれたため。
- ・自分の期待に届いてくれそうだったから。
- ・大阪女学院大学の英語教育には定評があり、かつ教員向けの講座も盛んに行われているのを知っていたので、この機会にぜひ受講したいと思いました。
- ・以前に貴学の研修に参加してよかったから。
- ・生きた英語表現を英語圏の文化や思想、メディアなどと関連させて理解を深められるという点に興味を持ちました。
- ・昨年受講させていただき、継続して受講したいと思ったから。自分の授業力の向上に役立てたい。
- ・英語を学んでいく上で、コミュニケーション力をつけることが大切だということは分かっているが、生徒にその力をつけるには、どのような指導方法がよいのか迷っている。また、現実として入試もあるため、文法力もつけなければいけない。文法力をつけながら、使える英語、身近な英語を習得させるヒントをもらえたらと思い希望した。
- ・現在コミュニケーション英語を担当しているのですが、生徒を授業に積極的に参加させる手法について、日々思考しながら授業をすすめています。英語表現について、自分でももう一度再確認し、授業で生かすことのできるスキルを学ぶことができればと思い、受講を希望しました。
- ・教え方教室や更新講習（聴講）に参加して、大阪女学院大学の英語教育に感銘を受けているから。
- ・授業を行う上で多様な指導法を学び変化のある内容、形態で、授業の質を向上させたい。

B. この講習に期待することをご記入ください。

- ・コミュニケーションのための英語を目標とし、発音・音読を重視した教室での実際的な活動を見ることにより、今後の授業に役立てるとともに、自分自身にとっても、国際社会でリアルタイムで使われている英語に関する関心を高め吸収したいと期待しています。
- ・できる限り、参加型の講習であること。生の教材（authentic）を使ってほしい。
- ・日頃の授業で使えるような活動方法や技術などを教えて頂きたいですし、英語教師としてスキルアップするために、私自身のような勉強をしていけばよいのかについても教えて頂けるとありがたいです。
- ・実際の英語の授業に生かせる、様々なレベルの生徒にも対応可能なスキルを身につけたいと考えています。

私自身、留学の経験もなく、他国に長期滞在してその国の文化に深く触れるということがなかったため知識面での言語と文化の関係を知るだけでなく、体験的に理解できたらいいなと期待しています。また今は「生徒に英語を使って活動させる英語教育」をするよう言われていますが、なかなか実際にできていないので、英語での表現活動についていろんなアイデアを知りたいと思っ

ています。

- ・演習があれば体験的に学べるかと期待いたします。また、4技能の統合（今回はリスニングとリーディングの接点とあったので）の具体的な例などについて学びたいです。更に、どうしても講義調になってしまう文法指導をどのように扱って生徒たちに修得させるか、その実例を学びたいと思っています。
- ・少しでも色々なことを学んで、日々の授業に生かしたいです。Pair Work の方法。評価の仕方など。
- ・日頃の授業に生かせる具体的なノウハウを知りたいので、実際にすぐに使える機能的な講習をお願いしたいです。
- ・複数の教材を併用して文法を教える、という「英語表現」の授業のスタイルの中に、どのようにして生徒が生き生きと英語を使う（表現する）場面を取り入れるか、という点について、具体的なアイデアが得られることを期待しています。
- ・日本語でも英語でも相手に正確に気持ちや希望を伝えたり、聞き取ったりすることが重要ですが、それだけでなく遠回しな表現やウイットやジョークなども使いこなせるようになってもっと豊かな世界が自分自身も生徒たちにも広げていけることができればよいなあと思います。
- ・音読の指導法を学び、自らの発音もよくしたい。
- ・英語と日本語を比較しながら、違いを知り、新しい発見をすること。
- ・楽しい授業にする工夫のヒントを得たい。
- ・新しく始まった「英語表現」の授業をまだ担当していないため、今後の授業展開の参考にしたいと考えている。勤務校では英語に対する苦手意識の強い生徒が多いので、その意識を少しでもやわらげる授業にできる指導方法があればとも思っている。
- ・楽しく有効に英語の4技能を生徒に習得させる手法を色々で紹介していただければ幸いです。
- ・授業で実践できるスタイルを学びたいと思っています。
- ・生徒たちに英語で表現することの楽しさを伝えてあげたい。そうするための授業の展開のしかたなどを学び、2学期から早速いかしていきたいと思う。
- ・授業で使える指導法や英語教育に関する最新の情報について知りたい。
- ・2年間講習をうけさせていただき、たくさん資料をいただきました。また、教材研究をするときの考え方が変わりました。今年も刺激をいただき、やる気と元気をいただいて帰りたいと思っています。
- ・特に、「英語で表現する楽しみ、創作活動」という内容はすぐにでも授業で活用できるのではないかと今から期待しております。
- ・生き生きとした英語表現や発音、音読を習得することを期待しています。
- ・大阪府下では、今後一層英語教育に力を入れて行かれる方針と伺っております。その為に英語の授業はどうあるべきなのか、理想的な授業法を、同じ英語教育に携わっている方々と同席させていただき、自分なりに考え、学ぶ機会としたいと思っています。
- ・授業に活かせる知識と技術を学びたい。
- ・日々の授業に生かせるような内容の講習を期待します。
- ・リーディングの授業を、単に内容読解ということにとどまらず、文化背景や考え方の違い等にまで膨らませるヒントにしたいと思っています。また、音読指導や表現活動を活発なものにする具体的な事例を期待しています。
- ・英語の文字づらだけでなく、英文に隠された英語の発想や文化的な背景などを学び、授業に生かしていきたいと思っています。
- ・現場で使える活動をいろいろと紹介してほしい。
- ・日英の感覚の違いなどを教えて頂きたい。
- ・表現活動は時間をとると先入観が強く、進度に追われる授業の中で、十分に時間をとって行うことができないのが現状です。今の自分のやり方ではなかなかうまく行かず、何かうまくいくヒントを得たいと思っています。
- ・具体的な実践例とその基本になる考え方について、できるだけ多く知りたい。
- ・明日の授業から即使えるような内容、教材等を教えていただけたらうれしいです。また、できるだけ多くの「生の英語表現」を知る機会になればと考えています。
- ・生き生きとした英語らしい表現を語源や発想、具体的な暗記法、例文等も含めてたくさん教えていただきたい。例えば、あいまいな日本語を英語でどう伝えるのか、また文化としての言語を歴史や様々な面から学びたいと思います。
- ・講義を聴く機会もないのでスキルアップの技術を沢山教えてもらい、情報を知りたいです。
- ・新たな発見。生徒の多くは、まず「大学受験のための英語」を望んでいる。今回のテーマは英語教育の本質としては大変すばらしく、高1～2年生向けの授業展開ではイメージを持ちやすいが、高3生に対しては（現行の大学入試の形では）少々

想像しづらいです。そのあたり、ご指導いただければ大変ありがたいです。

- ・授業で役立つ表現や興味深い教材など色々教えて頂ければ幸いです。よろしくお願いします。
- ・現在勤務しているのは中学校ですので、中学校の現場でも、実際の授業で導入できそうな内容も盛り込んで頂けることを期待します。
- ・「生の英語表現」をできるだけ、たくさん提示していただいてたくさんの英語表現について学びたいです。
- ・生の英語表現と文化の関連性の説明、又 その英語表現をしっかり使っていける練習の場にもしたいと思います。
- ・最新の教育環境設備が整っていると聞きました。
- ・新たな指導のきっかけになればと思っています。
- ・「生の英語表現」に接する機会も減っているので、自分自身が「英語」を体感し、楽しみたいです。そして、その喜びを教室に持ち帰れたらと思います。
- ・以前のような新しい教授法を知りたい。
- ・日本の英語教育にはずっと疑問を持ち続けており、他のアジア諸国と比較しても、日本人の英語でのコミュニケーション能力は非常に乏しいのが現状です。生きた英語表現活動という講習内容に非常に期待しています。
- ・「英語表現」の授業が文法演習、英作文にとどまらないようにするための工夫やアイデアを教えていただきたい。
- ・授業で使える活動のヒントがもらえること。生徒が楽しみながら、基本的な文法力をつけ、自己表現につなげられる活動のヒント。
- ・授業で即使うことのできるような、授業展開方法について話を聴くことができればと思っています。
- ・文化と言語のつながりをしっかり理解したい。
- ・最新の情報、研究事例などを学びたい。

C. ご自身の英語の教科活動で日頃課題としていることはなんですか。

- ・大学受験する生徒が8割程度いるという状況で、①コミュニケーションのための英語を目標とする、②大学受験にも役立つように、単語や基本例文の暗記を重視する という基本方針を持っています。具体的には、「フレーズ・リーディングの徹底」「単語および基本例文の小テスト」を実施しています。
- ・英語で行う授業形式。本校の生徒の学力では英語での指示ですら難しく、どのように使用していくかを日々悩んでいます。
- ・授業に生徒が参加できる活動を取り入れること（音読など）（生徒に）一回の授業で少なくとも1つのことはしっかりとマスターさせること
- ・4技能をバランスよく取り入れた授業を展開する事により、総合的な英語の力を身につけさせる事を課題としています。
- ・まずは英語教員同士の打ち合わせ、相談の時間が十分に確保できないことが課題です。（日々の生徒指導や業務に追われている）教材を吟味して教材作成をしたりする時間が不十分なこと、同じ教科を担当する者同士の横ならび（共通理解）が不十分なこと、オールイングリッシュで授業することに対する不安（生徒が消化不良になる、進度が遅くなる）ことです。
- ・教師と生徒とのやり取りを中心にと考えて授業を展開しているのですが、特に文法指導による長文の内容理解中心になってしまい、文法を十分に習得させられていないように感じています。来年度からは入試も指導要領改訂により変わるだろうと言われている中、どんな力を生徒に習得させるべきか常に迷った状態であることが不安となっています。
- ・できるだけ同じ英文をくりかえし聞かせたり音読させたりしています。
- ・生徒が飽きることなく、インタラクティブな活動を目指す。内容がぶつ切りにならないようにつながりを意識しています。授業の構成に悩むことが多くあります。
- ・現任校には、この4月に移動してきたのですが、進学実績を上げることが求められているので生徒への要求（教材数や学習量）が驚くほど多いです。それゆえ普段の授業で取り入れたいと思っている指導方法を実践する余裕がないのが現状です。
- ・先ずきちんと単語、熟語そして文法の力をつける練習を繰り返し行かせた上で、読む力、書く力、話す力、聞く力を養成していこうと心掛けています。
- ・文法・訳読だけの単調な授業にならず、生徒に音読させ、なるべく自然な発音ができるよう指導しています。そのため、通勤時は月刊誌のCNNニュースダイジェストを0.5倍～2.0倍のスピードで聞きながらそれをまねる事を日々行っています。
- ・読めない、書けない、意欲がない。
- ・多忙さ(教科以外)の中でどう語学力をKeepするか。そうすることでしか生徒を魅きつけることができない中年男性教員なので。
- ・子供たちがいかに英語力を持てるようになるか、総合学習の時間は生きて使われている英語（歌や童話など）を引用しました。
- ・教師からの一方通行になる授業が多いのではないかと反省している。生徒が答えを待つのではなく、自分で考え、学習した

- 内容が定着するようにしたいと考えているが、英語にあまり興味を持たない生徒に対しては、なかなか難しいのが現状である。
- ・授業中にできるだけたくさん英語を聞かせて、音読、発話をさせて、新出の文法語句を speaking ,writing において使いこなせるところまで持っていくこと
 - ・英語表現活動が活動だけで終わらないように生徒の表現が豊かになるよう言い換えの工夫をすること。
 - ・英語を苦手と感じている生徒をいかにひきつけ、やる気を起こさせるか。一番課題であると感じている。
 - ・学力格差のある生徒たちをひきつける指導法を考えていきたい。基礎基本を確実に身につけられるように指導をしていきたい。
 - ・教科書や教材を読解したりドリル演習だけで終わることが多いので、それを通して思考力、判断力、また表現力を養うためにはどのような活動をすればいいかを学びたいと思っている。
 - ・常に生徒に考えさせる授業を行いたいと考えています。受け身になるのではなく、生徒も参加し、身をもって実感できるような授業を目指しています。
 - ・わかりやすい文法指導、英語が苦手な生徒にもわかりやすい文法、使える表現を教えるように努力しています。
 - ・現在、公文の採点スタッフをしており、今後、市の臨時講師の登録をし、できればその機を得られれば、と思っております。公文では、E-pencilを使いネイティブの発音に日頃から慣れるよう指導されますので、hやth、fの発音、文化や考え方の違いをおもしろく身近なものとして興味を惹くような教え方をしたいと思っています。
 - ・「英語表現」の授業では、まずは口頭で表現できるよう繰り返し練習した後、各作業へと進んでいる。
 - ・勤務校では、英語に苦手意識を持つ生徒が多く入学して来るため、文法や訳読中心ではない、コミュニケーションの力を育む授業にしたいと思っている。また、様々な理由から実際の生活体験が乏しい生徒たちに、教材を通して広く世界の文化や歴史に触れる機会を提供したいと考えている。
 - ・わかりやすい説明と、授業内でなるべく定着できるようにアウトプットの活動を入れたいと思っています。しかし、活動を入れるとその分、進度が遅くなるといったジレンマも感じます。(説明を短くする等、時間配分を考える必要があると思っています。)生徒の集中力が続く授業、英語がおもしろいと感じてくれる授業が目標です。
 - ・単に「おもしろかった、楽しかった」で終わる言語活動でなく、テーマとなる文法項目を授業中に理解と定着をさせるような活動(練習)をどうすれば行うことができるか等。
 - ・英語力をつけられる指導。声を出して発音・音読をしていくこと。
 - ・英語から日本語、日本語から英語と、頭の中で日本語に一度直すのではなく、英語で考え、英語で伝えるということを生徒にさせたい。そのしかけをどうすればいいかが課題である。
 - ・生徒の表現力(特に書く力)をいかにして伸ばすか、授業で行うコミュニケーション活動をどうやって「関心・意欲・態度」の評価に生かしていくか、生徒が興味や関心の持てる授業をいかにして作り上げていくかなどです。
 - ・楽しく、「わかった」と腑に落ちるような授業。学んだことを実際に使ってみよう、と意欲がわくような授業。
 - ・4技能のバランス、コミュニケーション能力の育成、他国の文化への興味・関心、より魅力のある授業づくり。
 - ・限られた授業数、授業時間の中でいかに効率よく重要事項を生徒たちに定着させるか。効果的な家庭学習の指導方法。
 - ・評価について、一斉授業での全員が飽きないリーディングやスピーキング指導について。
 - ・英語やその他の勉強も全く興味を持っていない生徒の多い学校で指導している事もあり、少しでも身近に感じられるようにこういう場所でこういうセリフを使うことができる、等、簡単な英文を教えたりしています。
 - ・生徒ひとりひとりが少しでも英語に対して前向きに取り組んでもらえるように考えている、一いかに自学習に向かわせるか。1回の授業で必ず1つはしっかり学んでいってもらうように心がけている。思いこまないように気をつける(「これくらいできるだろう」等)和訳中心からの脱却。等
 - ・楽しく授業すること。英語に興味を持ってもらうこと。
 - ・「文字指導」以前勤務していた私学の高等学校でもそうでしたが、現在勤務する中学校においても、中位層以下の生徒たちを中心に(特に、男子生徒)、不正確で乱雑な文字を書く生徒が多いので、厳しく、かつ丁寧に根気強く指導しています。「音読指導」英語嫌いや苦手な生徒たちを中心に、英語が読めない生徒が多いので、「ルビ」や「かなによる発音表記」も使いながら指導しています。また、「単語・熟語、本文のペア練習」、「暗唱」や「スピード音読」などを取り入れて、音読指導を行っています。また、「どの様な心理で、その発話が行われたか?」について考えさせたりもしています。必要に応じて、「語義の指導」「語の成り立ち」についても触れ、単語自体の面白みも伝えながら、忘れにくい指導法との位置づけをし、見せ方にも工夫しています。中学生にとっては少し難しいのかも知れませんが、「ネイティブ・スピーカーの持つ語感やイメージ」にも触れています。語義を知り、語感を磨くことで、「表現の違いや味わい」を体感してもらいたいと思っています。

- ・文法事項の習得だけでなく、英語が話される場面の背景にある文化についても学習を深めること。英会話では、お互いにプラス one sentence を意識させることで、表現力を高めること。
- ・生徒に文法説明する際には、「なぜそうなるか」と必ず納得され得る説明にすること、又 言葉の背景には必ず文化があり、その文化の違いを理解していくことこそが真の国際理解といえることを 折にふれて説明していく機会を作っている。
- ・英語への興味・関心が全くない生徒たちなので、少しでも英語や世界が身近に感じることができるよう工夫しています。
- ・できる限り訳読はしないようにしていますが、なかなかうまくいきません。
- ・文化的な側面であれ、発音・語法・文法 etc 何でもいいので、生徒が「そうなんだ!」「知ってよかった!」と思う何かを、毎時間伝えたいと思っています。
- ・生徒が英語を使って表現する機会を増やす。
- ・履修教科の1つとして、ただ教科書を教えるのではなく、他言語を学ぶという意識を生徒に持たせつつアクティブな授業になるように努力しています。
- ・問題演習が中心で、英語の表現を楽しませることができていない。
- ・4技能をバランスよく1時間の授業で取り入れること。さまざまな、学力の生徒がいるので、どの生徒も1時間で”分かった”と思える時間を作ること。
- ・いかに積極的に授業に参加させるということについて、日々、頭を悩ませながら取り組んでいます。
- ・「英語」や「英語的なもの」「外国」などに純粹に興味を抱き、夢の持てる授業をして本人が「学びたい」と強く思えるように導きたい。

1.2 講習評価・受講コメント

■文科省報告書式による講習評価（対象教員及び聴講教員：48名）

評価基準（4段階評価）

- 4：よい（十分満足した・十分成果を得られた）
- 3：だいたいよい（満足した・成果を得られた）
- 2：あまり十分でない（あまり満足しなかった・あまり成果を得られなかった）
- 1：不十分（満足しなかった・成果を得られなかった）

I. 本講習の内容・方法についての総合的な評価（4段階評価）

1. 学校現場が直面する諸状況や教員の課題意識を反映して行われていた。
2. 講習のねらいや到達目標が明確であり、講習内容はそれらに即したものであった。
3. 受講生の学習意欲がわくような工夫をしていた。
4. 適切な要約やポイントの指摘等がなされ、説明が分かりやすかった。
5. 配付資料等使用した教材は適切であった。

平均 4 3 2 1

受講者 48名 3.90 43人 5人

II. 本講習を受講したあなたの最新の知識・技能の修得の成果についての総合的な評価（4段階評価）

6. 教職生活を振り返るとともに、教職への意欲の再喚起、新たな気持ちでの取り組みへの契機となった。
7. 教育を巡る様々な状況、幅広い視野、全国的な動向等を修得することができた。
8. 各教育活動に係る学問分野の最新の研究動向、これまでの研修等では得られなかった理論・考え方・指導法や技術等を学ぶことができ、今後の教職生活の中での活用や自らの研修での継続した学習が見込まれる。
9. 受講前よりも講習内容への興味が深まり、教員としての知識技能の厚みや多様さを増す一助となった。

平均 4 3 2 1

受講者 48名 3.79 38人 10人

III. 本講習の運営面（受講者数、会場、連絡等）についての評価（4段階評価）

平均 4 3 2 1

受講者 48名 3.85 41人 7人

本学依頼受講者記述講習コメント

- ・今日の研修を受講し、英語授業の中で生徒にどうやって互いの国の文化的・考え方の違いを考えさせるのか、また、どうやって生徒参加型のアウトプットを行わせていける授業、興味を惹きつける授業を展開していけるのか、の大きなヒントやきっかけを

いただきました。私自身いろんな表現をもっともっと勉強して、生徒に楽しみながら納得・理解してもらえる、どんどん参加したいと思ってもらえる授業、実際にアウトプットの表現力も上げていける授業を工夫していきたいと思います。

- 英語を学ぶことにおいて、日本人としての感覚を大切にしつつ、英語という別の文化を背景にした言語を学ぶことに対し、様々な切り口からの方法を講義の中で紹介していただき、すごく刺激を受けました。普段の教科書や教材では得られない内容で新鮮でした。今後もこのような先生方の講義や英語の疑問をぶついたり、教育法を云々する機会が持てればと思います。
- 大変分かりやすく、明日からの授業に役立つ内容でした。英語が好きになる授業、また、英語の文化をもっと学ぼうと思わせる授業づくりに役立ちました。
- お二人の先生とも、今回の講習に大変興味深く、豊富な資料準備され、とても良い勉強になりました。「生の英語」では authentic な内容を生徒に提示し、そこから学べる文化の違いを生徒に理解させる様々な実例を紹介していただき、とても有益でした。「生き生きとした英語表現活動」では、多角的に生きた英語を生徒に表現させる活動例を提示していただき、大変勉強になりました。現場でも活かしていきたいです。これからの残りの夏休みに講習で消化しきれなかった部分をしっかり復習しようと思いました。
- 言語を学ぶとは文化を学ぶことであるということがよくわかり、これからの指導に非常に役立つと思いました。また知らない語法等も教えていただきよかったです。何よりも非常にバラエティに富み、生徒の意欲を引き出そうとする教材を数多く与えていただきありがたかったです。
- Writing の教案など参考になった。私は個人的には listening の力を伸ばす授業法を具体的に知りたいと思っている。またご教授願えたらと思う。
- 「英語は単なるコミュニケーション・ツール」以前、私が言われた言葉です。その時は英語を軽視した言葉だと気分を害しましたが、コミュニケーションを図る上で問題がなく、自己を表現できるのであれば、それは日本の英語教育がめざすところに近づいたということだと思います。本日の講習は、今後のグローバルな人材を育成するのに必要な要素が沢山盛り込まれていたと思います。
- 「本物の英語」をどう生徒に修得させるか、様々な指導法、アイデアを学ばせていただきました。それと同時に、現行の入試制度が大きく変わらなければ、生徒に「本物の英語」を体得させることが難しいと感じています。もちろん、膨大な量の解答を採点すること、公平な評価の基準の問題もあり、現場の教師はこの矛盾の中、理想の授業ができないことに頭を抱えています。とはいえ、今回の講義で学ばせていただいたことは、できる限り授業に取り入れさせてもらおうと思います。沢山のアイデア、資料をいただき本当に感謝しております。ありがとうございました。
- これからの授業の方向性が少し見えたような気がします。今回の講習から、普段私がしている講義型の授業がいかにも退屈かを身をもって感じました。知的活動としての英語授業、表現する楽しさを知る英語授業が今後の目標かなと思います。沢山の資料をいただきましたので、家に帰ってじっくり読みたいと思います。先生方の熱意が伝わり、明日へのエネルギーをいただきました。ありがとうございます。
- 第一部・第二部のどちらの講習とも、日頃私が知りたいと思っていること、どうしようと悩んでいること、そのニーズに合った講習でした。第一部の講習では普段あまり意識していない言語と文化の関係性が学べ、理論を教えていただいた、準備していた教材も、それぞれ个性的で自分でも使ってみたいと思った。第二部の講習では、明日から早速やってみたいと思うような、具体的・実践的な授業の展開法をお教えいただき、生徒になった気分で楽しかった。教師としてやってみたいことがイメージできる講習であった。先生方、大変な準備をしてくださり、ありがとうございました。
- 「伝えたいものがあるから」から「表現する」ということに一番感銘を受けました。そのシチュエーションづくりから入ることの大切さを改めて知れてよかったです。「はらぺこあおむし」「マララさんの話」はぜひ授業に取り入れたいです。中井先生からいただいたアイデアの一つ一つ、教材化していく姿勢を大切にしていきたいと思いました。ありがとうございました。
- 豊富な資料、音声も使った多様な英語へのアプローチで学び甲斐がありました。全体を通じて、「英語を学ぶことは楽しく、価値のあることだ」というメッセージを感じ、生徒達にもその高揚した気持ちを伝えていこうと強く思いました。
- 聴講生としての参加も 2 年目になります。3度この講習を受講しましたが、毎年新しい考え方や活動を教わり、教材研究にさらに気持ちが入ります。講義中、生徒達の顔が浮かび、「この活動を授業でやるなら、どんな取り組みをするだろう」とワクワクしました。毎年、東條先生や中井先生の熱意に刺激を受け、「夏休み中、しっかり準備をして休み明け子どもたちと向き合っていこう」という気持ちになります。自分の英語力や授業力に自信をなくすことがよくあるのですが、ここで講習を受けて、またチャレンジ精神が生まれ、1年間頑張れます。また、来年聴講生として受講したいです。熱い講義有り難うございました。
- 本大学での講習を通して、自分の授業方法について考えさせられるところが多くあり、有意義であったと実感しました。英語科

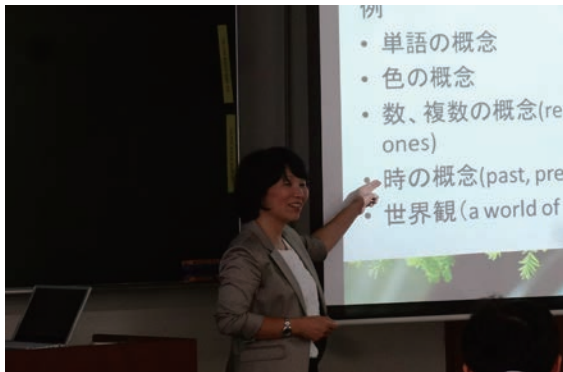
教員として、生徒に発信していかなければならないことは何かをしっかりと考え見ようと思いました。

- 英語と日本語の違いを色々な観点から感じることができて良かった。その違いをきちんと把握するには文化の背景をしっかりと知っておく必要があることもわかった。「色の概念」もそれぞれ違いおもしろいと思いました。何よりも教材の量の多さと丁寧さに先生方の思いが伝わってきました。
- 大変有意義な講習であった。講習のねらいにあったとおり、「生の英語表現」にたくさん触れることができ、私自身も「生の英語表現」を学ぶ喜びを感じることができた。第二部の「生き生きとした英語表現活動」では具体的な活動をたくさん経験することができ、もう一度自分の中で整理して実際に授業で使ってみたいと思う活動がたくさんあった。資料もたくさん頂き、中井先生の細やかなフォローもあり、とても満足できる講座でした。ありがとうございました。
- 今、私が教えている生徒達にとって、残念ながら英語は学生時代の試験科目の一つでしかありません。低学力の生徒が多く周囲に英語を話す必要も人物もいないため、英語を学び使えるようになりたいというモチベーションはほぼないです。そんな中で、本日の講習は非常に有意義なものでした。普段自分が行っている英語の授業とは異なり、自己表現に重点を置く興味深いものでした。実際に役立ちそうな指導例が豊富で（ただ、正直言うと、高校生レベルのものばかりだったので低学力の中学生レベルのものもいくつかあれば嬉しかったです）アレンジして授業で実践できそうです。
- 第一部・二部の二つのテーマで一番心に残ったのは、「違いを知ることは楽しい」ということです。英語学習を通して、自分の考えと異なる考えを知ることとはとても大切で、楽しいことだと改めて思いました。その部分をいかに楽しく、興味を持たせるかについては私の指導の力量をもっと養う必要がありますが、何より、私とその楽しさを知っている事がとても大切なことだと思います。その楽しさを知ることができたこの講習は、教員としての大きな step up になりました。ありがとうございました。
- 認定試験の解答にも書きましたが、英語学習に対するモチベーションを上げる事も大切ですが、まずは生徒達の「想像力」の可能性を広げることが key になるなあと実感しました。「なぜ英語を話せると良いのか」「話せたら、どんなふうに変化するのか」そこから初めて“globalization”であったり、自分の“identity”について考えられるのだと思います。以前から大阪女学院の英語教育の評価が高いと聞いて、「なるほど！」と思いました。この講座で得た学びを、是非、受け持つクラス内、そして同僚と共有したいと思います。ありがとうございました。
- 大変良い講習でした。今の英語教育の展望や問題点など学校現場でも使える内容だと思います。教材を通して生徒が興味を持てるものであったので、授業で活かしていきたいと思います。ありがとうございました。
- ただ話を聞くのではなく、生徒の立場になって、実際に活動する場面も多くあり、とても楽しく学ぶことの多い一日でした。それに、今すぐにも使えそうな魅力的な教材をたくさん提示していただいて、2 学期の授業が楽しみになってきました。今、中3を担当しているので、まずは必要な文法事項を教え、教科書を一刻も早く終わらせ入試対策もしていかなければならないのですが、その合間に、今日教えていただいたおもしろい教材を活用し、子ども達の持つやわらかく豊かな発想力、想像力、表現力が発揮できるような授業内容も取り入れていきたいと考えています。とてもためになりました。さて気合いを入れ直し、さらに子ども達の様々な力を引き出せるような授業をつくれるように、これからも頑張るぞ！今日は本当にありがとうございました。
- 最近はどうして英語が使えるかどうかという点に重点がおかれるような方針が主流になってきている感じがしていたが、英語を通して文化を教えたり、また文化の違いを教えたりすることの大切さを改めて認識させていただきました。自分の考えを英語で表現できる喜びを生徒に伝える事ができればと思います。
- 授業に取り入れてみたい活動が色々あり、とても役に立ちました。ただ、現在勤務している学校であくまでも横並び（他の先生がするのと同じスピードで同じ教材を使う）が要求されるため、自分の授業に少しでも取り入れるにはどうすればいいかがこれからの課題です。「生きた英語」楽しかったです。この楽しいという感覚を生徒にも与えたいです。色々挑戦してみます。
- 東條先生の「英語教育を少し離れたところから俯瞰して見る」視点でのお話は、研究者ならではの内容で、大変参考になりました。特に、“Where the Wild Things Are” は子どもに怒り方を教えようとしているというご意見には深く同意し、すごいなあと思いました。先生は英語を教えることそのものも大変お好きなのだと想像します。中井先生のお話は、とても時間内では収まらず、一週間くらいじっくり連続で講義を受けることが可能ならどんなに素晴らしいだろうと、何回も思いました。頂いた資料はどれもすぐく時間をかけ、愛情を込めて作成されたことが、日々教材研究に頭を悩ませている私たちにはすぐにわかります。貴重なご講義どうもありがとうございました。
- 多くの資料と多くの示唆を与えていただき有意義な時間となりました。すぐに授業で使ってみようものが多く、早速 2 学期に向けて準備したいと思います。
- 最近の生徒は「なぜ英語を勉強しなければならないのか」とあまり言わなくなりました。2000 年世代である彼らは「英語をわかりたい、英語が話せたらいい」と肌で感じているようです。それだけ日本でも今やグローバル化や英語の必要性が認知されて

きているのだなあと感じます。この仕事に携わって30年以上経ちますが、かつてないほど英語学習の重要性が増していると思います。今日の講習は、お二人の先生とも practical な英語学習を提唱されているご様子で非常に刺激を受けました。改めて自分の授業も新しいニーズに合ったものにしていかなければと思います。

- ・「生の英語表現」同じものを見ても言語によって描写する言葉があったりなかったりする。今日の講義であったように雪の話は有名で以前どこかの大学入試の長文にも扱われていました。非常に興味深い内容だと思います。勤務校の選択授業で、「国際理解」というものがあります。日本語と英語の背景にある文化の違いを扱った高校でも使える教材があれば教えていただければと思います。「生き生きとした英語表現活動」ためになる教え方を教えていただいていたありがとうございました。今後何かの形で活かしていきたいと思います。しかし現実には、教科書を猛スピードでこなさなければ学年で統一のテストが作成できません。そして入試の長文理解もあります。日々の英語の授業を今日のような内容に変えるにはかなりの努力と苦労があると思います。
- ・東條先生の講義では、「生の英語表現」について学びました。絵本を扱った部分で、子どもたちの「怒り」に対する考え方が違うということを知りました。日本では我慢させますが、アメリカでは表現する方法を教えるのだそうです。理科の教科書では光合成をパンづくりにととえて説明していただきました。（明日理科の先生に見せてあげようと思います）どちらからも日本とアメリカの表現の仕方・文化の違いを味わうことができました。中井先生の講義では、「英語の表現活動」について学びました。生徒達が「おもしろい」「やってみよう！」と思ってくれるような活動例をたくさん紹介していただきました。今でも、「自分の言っていた場所の2泊3日のツアー」のプランを考えさせたり、春休みやゴールデンウィークにあったことの日誌を書かせたりしてはいましたが、今後もさらに取り組めるよう工夫していきたいと思います。
- ・本日のお二人の先生の講義を受け、今後考える上で大切な示唆をたくさんいただきありがとうございました。単に点を取るためのような了見の狭いものではなく、英語教育に対する深い哲学と見識をお持ちだと思いました。また、実践的な様々な側面からのアプローチの仕方も具体的に提示してもらい、今後の自らの授業に役立てる事ができたと感謝しています。
- ・本日はとても有意義な一日を過ごす事ができました。どの講習も授業で活用できそうなものであり、また何よりも東條先生、中井先生のお話がおもしろくてあっという間の一日でした。ワークアウトをしてみると、生徒には「何でもいから言ってみて、やってみて」と言うものの、自分が逆の立場だと急に思い浮かばないものだと思います。私も大学の頃に中井先生のような先生に出会っていたら、もっとちゃんと授業を聞きたらと思うほど、楽しい講習でした。ありがとうございました。
- ・講師の先生方も、たくさんの資料を用意してくださり、「盛りだくさん、時間がない」とおっしゃっていましたが、本当に時間が短くももっとも思っているうちに終了となってしまいました。今日一日しか受講できないのが残念です。提示していただいた資料も早速、tryしてみたいと思うものばかりですが、受講者を前に講義される東條先生、中井先生のテンポ、間の取り方や合間に挟まれる小話の入れ方なども非常に参考になりました。来年も受講したいと思います。ありがとうございました。
- ・「生」の英語表現に触れることがなぜ重要なのかについて、改めて理解することができました。私の学校の英語の授業では扱う教材が決められており、その量が多いので、それをこなすことに必死になって、“authenticity”にこだわって、生徒の英語を学ぶ喜びを引き出せるような取り組みがなかなかできません。教師側が常にアンテナをはっていて、まさに「今」を感じられるような教材づくりをしていかなければならないと思いました。
- ・期待通りの内容でした。心へも脳へも刺激をもらい、私自身が元気になれたのとこれからの授業のためのヒントをたくさん頂きました。高校時代、英語のおもしろさを教えてもらおうとわくわくしていた自分を改めて思い出し、今の自分を反省せねば！と思った次第です。ありがとうございました。
- ・本講習を受講して、もっとたくさんの英語に触れないといけないと改めて思いました。生徒達に日英感覚の違いを気づかせたり、authentic な素材を提示していくには教員自らが大量のストックを持ち、適切なタイミングで扱っていくことが大切だと思った。示唆に富む講習であった。ありがとうございました。
- ・具体的な活動例や教材を明示していただき、ありがとうございました。現在高校3年生に英語表現を教えています。副教材を色々試しながら2年次から進めてきました。本日の講習を受講して、生徒がもっと生き生きと楽しんで、自分を表現するような活動またはワークができていなかったように思います。「生の教材」または身近にある「興味深い教材」を使って生徒が書きたい、表現したいと思える授業展開ができるように工夫していこうと思います。授業に使えるヒントを色々教えていただきありがとうございました。
- ・演習もたくさんあり、周りの受講者の方ともすぐに打ち解けられ、とても楽しく充実した講習でした。また、現場でどのように教材をアレンジしたらよいか、どのような視点を持って授業を展開したらよいか（できるのか）、たくさんのアイデアを示していただき、早速帰りの電車の中でもう一度資料を読み返したいと思います。（明日も受講いたします。とても楽しみです。）ありがとうございました。

- ・具体的な教材として、生徒のレベルに合わせて難易度の変更は可能なので、様々な例を体験できたことは本当に良かった。普段の授業では、正直、生の英語を遠ざけている。しかし、今回の講習を受けて、生徒の知識や感性に制限をかけているように感じた。教科書にとどまることなく、様々なものに目を向け、考えさせる工夫が必要だと感じ、実践していきたい。
- ・本日は本当に盛りだくさんの授業に直接役立つ指導法を教えていただきありがとうございました。普段全く思いつかなかったアイデアに感心させられました。今後の授業に活かしたいと思います。
- ・具体的に明日にも使えそうな教材例を本当にたくさん提示していただいた。正直、もっと時間がほしいと思うくらいでした。「英語表現」という私にとって苦手意識のあった、また、私自身も十分に学ぶ機会があまりなかった活動について、その意義や方法について多く学ばせていただいた。現場で取り入れるのが楽しみです。
- ・少ない時間の中、多くのことをご教示、ご提示くださり、ありがとうございました。
- ・東條先生の講義は、英語という言語が持つ背景や意味などについて再考する良い機会となりました。少し難しい部分（3のthinkingのお話）もありましたが、生の英語表現について改めて認識しました。中井先生の講義はあまりにも中身が多くて時間が足りず、少ない中身で時間をかけていただいた方が良かったかとも思いました。いずれの内容も2学期から使えそうなものもあり、勉強になりました。欲を言えば、高校生レベルの教材が多かったように感じましたので、中学生向きのもがあると良かったかなと思います。アイデアは教えていただいたので、自分も教材づくりに力を注ぎたいです。
- ・第一部は、言語と文化の関係性という改めて英語という文化について再認識ができました。実際、「絵本」など授業で使おうかと迷っていましたが、今回受講して語彙だけでなく、こんなににも英語文化が詰まっているのだと驚きました。第二部は、様々な教材を教えていただいて、とても興味深く、私自身が楽しく学習できました。言語は文化であるということが実感できました。ありがとうございました。
- ・生の英語をいかに授業に取り入れていけば良いかの示唆を沢山されて、大変参考になりました。以前、数年前、御学で開かれていた中井先生のセミナーで発表されていた（戸山先生）ときに、pair workを文法の時間にもやらせている実践を聞かせていただき、自分の授業でも実践してみると、結構、生徒の授業中の活動が活発になることがわかり、色々な場面で多用しております。今回の講義でも、活用できることが多々ありそうなので、取り入れてみたいと思います。本日はありがとうございました。最後に、break timeのお茶とお菓子、とっても嬉しかったです。ごちそうさまでした。
- ・大変盛りだくさんの内容で、「復習」が必要だと思っているところです。実践的で今後の授業やオープンスクールでも使えそうなアイデア満載の中井先生の講座や、少し客観的に英語教育のあり方などを模索された東條先生の講義は非常に良い刺激になりました。ありがとうございました。
- ・本日は貴重な講習をありがとうございました。東條先生の講座では、小学校の教科書などユニークな教材を使われ大変興味深く受講できました。英語的な発想・日本語的な発想、ことばの持つ力って素晴らしいと感じました。中井先生の講座では、大変多くの資料を準備くださり、これからの授業の参考にさせていただきます。自分自身体験しながらの講座だったので、授業ではどのように生徒に対し利用できるかなど考えることができました。
- ・すぐに実践できるヒントを沢山頂きました。そして何より生徒が授業の主役だということを再認識することができたと思います。多くの資料を準備し、溢れるほどのヒント・情報を教えてくださった両先生に感謝します。ありがとうございました。
- ・今日の講義では、日本語と英語の表現の違いを実感することができる教材を沢山紹介していただいたし、それを生徒達と共有し、違いを発見し、興味を持ったり、楽しむというようなプロセスを踏んでいきたいと思った。「表現」という文法問題演習のみでとどまり、ダイアログも音読させてはいても、単なるつまらない音読になってしまっていたので、中井先生のように、いろんな状況を与えて、同じ言葉をどう表現（音として）するかに挑戦させるのはおもしろいと思った。英語を教えるというのは、その背景にある文化を教えるということ、そのことがとても心に残った。文学部出身なので、英語教育に自信がなかったが、自分の伝えたい事を自信を持って、教壇に立とうと思いました。今日はありがとうございました。
- ・英語を使って表現する事の楽しさと難しさを実感しました。今日の講習の内容を自分なりに授業で使えるように変えたいと思います。わたしは、授業で英語表現はあまり教えていませんが、英語を通じて自分を表現する材料をたくさん提供していただいたので、是非活用したいと思います。英語を話す人と日本人との表現の違いを生徒達に考えさせられる授業がしたいです。ありがとうございました。



2. 平成 26 年度夏季 教員免許状更新講習2

「授業指導技術スキルアップ演習：発音・音読指導、リーディング指導、文法表現指導」.....平成 26 年 8 月 6 日（水）

- ・「発音・音読指導」
- ・「リスニングとリーディング指導の接点を考える」
- ・「わかる・使えるようになる文法指導の工夫」

■講座のねらい

英語授業における指導技術のスキルアップを図る実践・体験型ワークショップを3つの分野で行う。

午前の「発音・音読指導」では、英語の発音を理解し発音指導の素地を教師自身が形成するために、音素の生成過程や音のつながりの仕組みを理解し、教室で使用されているテキスト・絵本などを用いた体験型ワークショップを通して、発音向上のための練習を行う。また、音読指導のヒントについて考える。

午後の「リスニングとリーディング指導の接点を考える」では音と文字をつなぐ演習として、リスニング（音声情報）とリーディング（文字情報）を関連付けたスラッシュリーディングの指導法について考える。

午後の「文法表現指導」では、「文法や英語の使い方がわかりやすい授業」を求める生徒のニーズに応え、英語を使ったり表現し合ったりするための「わかる」「使えるようになる」文法指導のステップを中学校や高等学校での指導例をもとに考える。